

# 停電時でも空調ができる！電気が使える！ 電源自立型空調「GHPハイパワープラス」

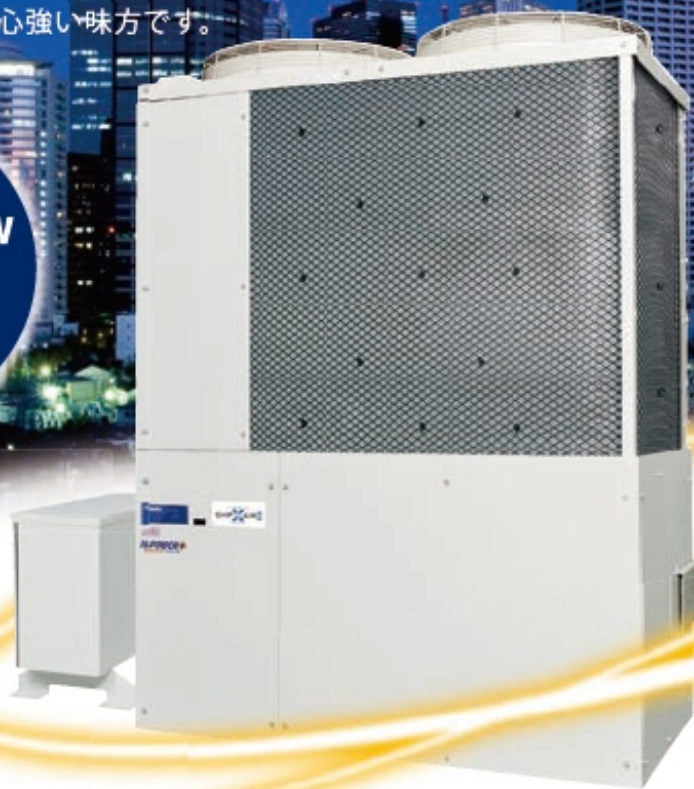
電源自立型空調「GHPハイパワープラス」は、  
停電時においても、電力供給なしで運転を開始し、  
発電した電力で空調、照明、通信機器などの使用を継続可能とする  
「自立発電運転」機能が搭載されています。  
「停電対応GHP」として、不測の事態に備える心強い味方です。

自立運転時発電機出力  
**最大4.5kW**  
自立運転時供給電力  
空調 + 発電 **2kVA**まで  
発電 **3kVA**まで

GHP XAIR II  
GHP エグゼア II

## HiPOWER+

電源自立型空調GHP ハイパワープラス



560形

F2シリーズ「エグゼア II」 受注生産品

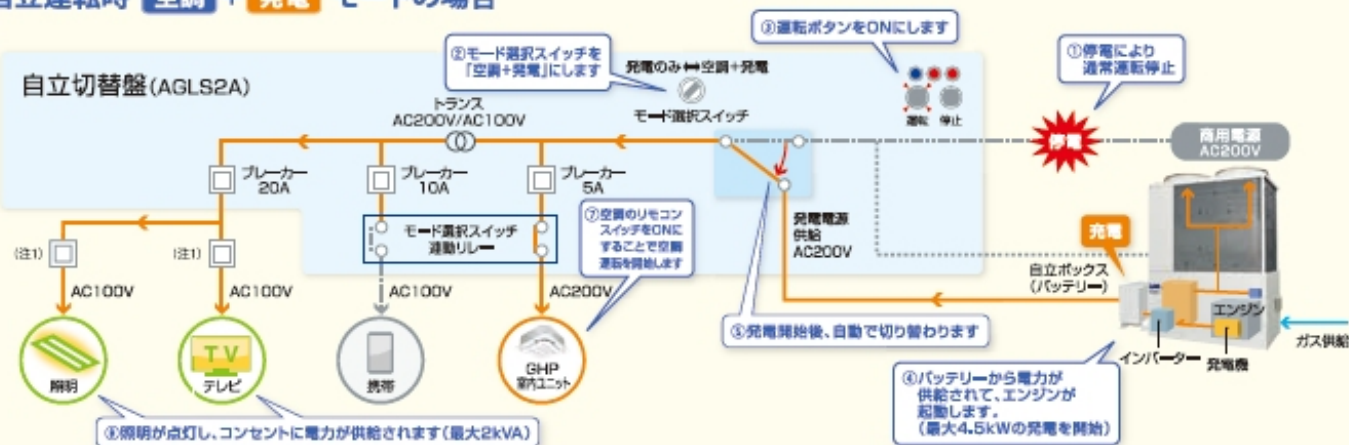
ABGP560F2ND 56kWタイプ (20馬力相当)  
ABGP560F2PD

メーカー希望小売価格 **7,980,000円** (税別) (自立ボックス、バッテリー含む)

※エグゼアおよびGHP XAIR(ロゴ)、GHPハイパワープラスおよびHiPOWER+(ロゴ)は、東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、東邦ガス株式会社の登録商標です。

## システムイメージ図

### 自立運転時 空調 + 発電 モードの場合



(注1) 現地調査にて、負荷ごとにブレーカーを設置することを推奨します。 ※本システムイメージ図はオプション品 (AGLS2A) を採用した場合となります。 ※抵抗負荷以外の機器 (モーターなど) を接続する場合は、力率や突入電流の影響で定格出力がカタログ値より下回る場合があります。 ※停電時に自動的に自立運転を開始しません。お手数ですが、お客様にて自立切替盤で運転開始操作を行ってください。

●システム構成についてのご案内：自立ボックス、バッテリー、自立切替盤は必須手配品となります。自立切替盤、自立運転スイッチは当社オプション品もしくは現地調達品をご利用ください。(詳細はP.32をご参照ください。)



## 自立運転時、「空調+発電」、または「発電のみ」の2モードから選択可能

通常時は省エネ空調運転を行い、自立運転時は季節や状況に合わせて「空調+発電」モード、または「発電のみ」モードのどちらかを選択可能です。

- ① 空調が必要な場合は、「空調+発電」モード
- ② 中間期など、空調が不要な場合は、「発電のみ」モード

(注1) 自立運転時の空調能力は冷房45.0kW相当(参考値)となります。また、室内ユニットは全台通風運転もしくは停止となります。

### ■切替スイッチイメージ

発電のみ ↔ 空調+発電

発電のみ ↔ 空調+発電



季節や状況に合わせて、モードを選べます

## 自立運転時、電源出力最大3kVA<sup>(注1)</sup>。空調以外にも電力使用可能<sup>(注2)</sup>

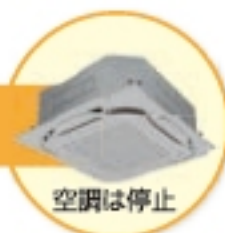
### 自立運転:空調を使う場合



空調以外の用途に最大2kVAまでの電力が使用可能です。

教育機関などにおける避難所や災害対策本部などの予備電源として、照明、携帯充電、テレビ、パソコンなどに使えます。

### 自立運転:空調を使わない場合



発電モードのみの運転も可能です。(最大3kVA<sup>(注1)</sup>)

空調が不要である中間期などには、発電専用として3kVAの容量を空調用途以外で使えます。

- (注1) 室外ユニット自己消費分を差し引いたものが3kVAです。  
 (注2) 非常用電源(非常用エレベーター、火災報知器、消火ポンプなど)は除きます。  
 (注3) 発電のみモードの場合です。  
 (注4) ●右記の図は電気機器選びの際の目安を示しています。実際の電気機器の「消費電力」「必要発電量」は機器によって異なりますので、使用機器の消費電力をお確かめください。  
 ●モーターを搭載した電気機器はモーターの起動時に定格消費電力の2~3倍の電力を必要とします。自立発電コンセント容量を超える起動電力が必要な電気機器を接続すると、過負荷を検出し、自立運転を停止する場合があります。  
 ●本製品は、生命や財産が損傷を受けるおそれのある電気機器に接続しないでください。  
 ●自立運転を開始しますと、自動的に機器に電源が供給されます。このため、ストーブなど、起動前に周囲の安全確認が必要な機器については、自立発電電力が供給されてから、機器の電源を入れてください。  
 (注5) 右記の図は蛍光灯選びの際の目安を示しており、各蛍光灯タイプが接続できる最大容量です。

業界最大発電量  
最大3kVA  
まで使用可能!  
(注3)

GHPハイパワープラスで  
接続可能な電気機器例<sup>(注4)</sup>



液晶テレビ  
(40型)85W



ノートパソコン  
75W



電気ポット  
900W



携帯充電器  
15W



ハロゲンライト  
250W



蛍光灯<sup>(注5)</sup>  
インバーター方式 1500W  
ラピッドスタート方式 1200W  
グロー管スタート方式 300W

3kVAでは



照明(蛍光灯300W)  
約10台分

または



テレビ  
約35台分

または



携帯電話の充電  
約200台分

が可能

※W=VA×力率です。機器のW表示の消費電力は力率100%の場合です。  
 ※詳しくはP.217の接続できる電気機器の一例、接続できる蛍光灯の容量をご参照ください。

### 自立運転時に使用不可の電気機器例



火災報知器



消火ポンプ

※詳しくはP.217の「●接続してはいけない電気機器」をご参照ください。

ポータブル発電機  
などが不要

- ① イニシャルコスト低減  
・ポータブル発電機などの  
発電設備が不要です。



- ② ランニングコスト低減  
・ポータブル発電機に必要な定期的な燃料  
交換や燃料の貯蔵、調達の手間が不要です。



## 系統連系協議が不要

- ① イニシャルコスト低減  
・系統連系盤、CT(変流器)が不要です。
- ② 系統連系協議の手間を省きます  
・面倒な電力会社との系統連系協議が不要です。

系統連系とはGHPで発電した電力を商用電源に供給することです。「GHPハイパワープラス」では、系統連系を行わず、特定の範囲のみへ発電した電力を供給します。

### ■GHPハイパワープラス接続可能室内ユニット

室内ユニット接続容量範囲	96.4~130%(同時運転130%まで)
室内ユニット接続容量合計	54.0~72.8kW以内
接続可能室内ユニット <sup>(注1)</sup>	AXFP45~160MJ、AXFP45~160DA、AXCP45~160B、AXKP45~71B、AXMP45~160AC、AXHP45~160MA、AXHP71~160M

(注1) 接続可能室内ユニットについて、詳しくはP.64をご確認ください。